

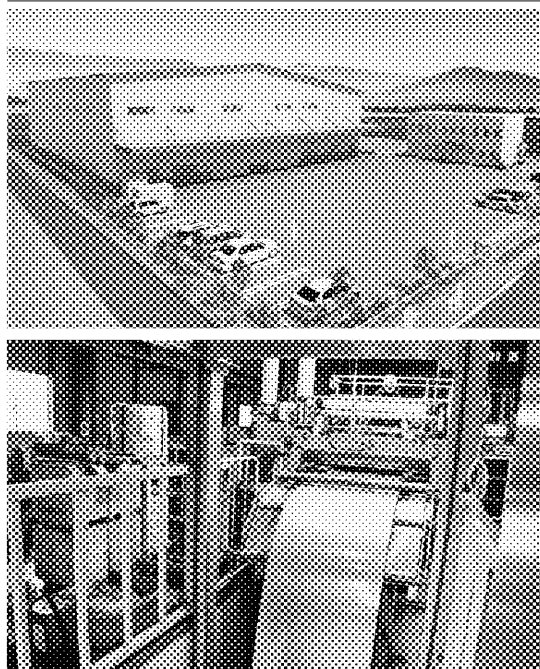
鐘光産業、浜松に新工場

車部品特殊鋼の納期短縮

来秋稼働

鐘光産業(兵庫県尼崎市、藤本恵一社長)は、浜松市浜北区に特殊鋼を加工・保管する新工場を設立する。2024年夏に開設し、同秋からの稼働を目指す。延べ床面積は約2700平方メートルで、加工能力は月1500ト程度の見込み。新工場はコイルセンターの機能を持ち、近隣の取引先である自動車部品メーカーなどに対して、納期短縮や輸送・加工コストの低減を訴求する。事業継続計画(BCP)を強化する狙いもある。

国内のコイルセンターをそろえ、大型機は1は兵庫県尼崎市の本板厚0.5ミリ6.0社に次いで2カ所目。ミリ、小型機は同0.5ミリ3.2ミリに対応。立ち上げ当初の従業員は12人で、11人を大型機と小型機のライ



①浜松市浜北区に新設する工場の完成イメージ②スリッターで鋼材を切断する(兵庫県尼崎市の設備)

だ。総投資額は非公表。鐘光産業は静岡県の自動車部品メーカーとしていた。工場新設で

取引しており、これまでは取引先近隣の加工工場に切断などを外注していた。工場新設で内製が可能になる。特殊鋼は粗鋼生産全体の数%を占める。鐘光産業はシートベルトなどの自動車部品向けを中心に販売する専門問屋。常時数千ト以上の豊富な母材在庫と小口需要に応える加工能力に強みがある。JFEスチールなど各メーカーと取引実績を有する。